| 北九州工業高等専門学校 | 開講年度 | 令和03年度 (2021年度) | 授業科目 | 英語ＡⅡ |
|---|---|---|---|---|

## 科目基礎情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目番号 | 0023 | 科目区分 | 一般 / 必修 |
| 授業形態 | 授業 | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 4 |
| 開設学科 | 生産デザイン工学科（機械創造システムコース） | 対象学年 | 2 |
| 開設期 | 通年 | 週時間数 | 4 |
| 教科書/教材 | 『NEW ONE WORLD Communication Ⅱ』伊東治己ほか、教育出版 | | |
| 担当教員 | 渡辺 眞一,横山 郁子 | | |

## 到達目標

1. 中学既習レベルの英単語を辞書を使わずに理解することができる。
2. 文科省検定教科書高校2年レベルの英文について、辞書を使って内容理解ができる。
3. 理解を終えた英文を、聞き手にわかりやすく音読することができる。
4. 既習の単語・文法を活用して簡単なコミュニケーション活動を行うことができる。
5. TOEIC Bridgeで70点相当の点数を取ることができる。

## ルーブリック

| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 |
|---|---|---|---|
| 評価項目1 | 各課の英文法を８割以上理解できる。 | 各課の英文法を７割以上理解できる。 | 各課の英文法を６割以上理解できない。 |
| 評価項目2 | 各課の内容を８割以上理解できる。 | 各課の内容を７割以上理解できる。 | 各課の内容を６割以上理解できない。 |
| 評価項目3 | 各課の語彙を８割以上理解できる。 | 各課の語彙を７割以上理解できる。 | 各課の語彙を６割以上理解できない。 |

## 学科の到達目標項目との関係

## 教育方法等

| | |
|---|---|
| 概要 | 本授業は、1年次に学んだ内容を発展させ、「読み」「書き」「話し」「聞く」の4技能を総合的に向上させることを目的とする。各課の単語習得(意味・発音・アクセント)・熟語習得・文法事項理解・内容理解を通じて、語彙を増やし英語の音声に親しみ、英語で表現する力と意欲を育成する。なおこの科目では文系科目における科目間連携の充実を目指した授業を行う。 |
| 授業の進め方・方法 | 各課の予習(予習問題集を用いての単語調べ、本文全体の通読など)は必須とする。辞書を必ず持参すること。<br>TOEIC Bridge、全校一斉英単語テスト(「理工系学生のための必修英単語2600(COCET2600)」)などの成績は英語科内規に準じて評価の対象とする。適宜、小テストや各課の復習テスト、ワークブック課題などを課す。 |
| 注意点 | 必ず予習を行ってから授業に参加すること。 |

## 授業の属性・履修上の区分

| | | | |
|---|---|---|---|
| □ アクティブラーニング | □ ICT 利用 | □ 遠隔授業対応 | □ 実務経験のある教員による授業 |

## 授業計画

| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 |
|---|---|---|---|---|
| 前期 | 1stQ | 1週 | 授業ガイダンス | 授業の進め方、予習復習の仕方、テスト、参考書、シラバスなどについての説明 |
| | | 2週 | Lesson 1 Ambassador of World Peace ; Lesson 2 Dogs as Human Companions | 現在完了形（受け身と進行形）<have [ has ]been +分詞>, 関係副詞（where, when, why, how）; 形式主語it（that節やto不定詞を指すもの）, 過去完了形<had+過去分詞> |
| | | 3週 | Lesson 1 Ambassador of World Peace ; Lesson 2 Dogs as Human Companions | 現在完了形（受け身と進行形）<have [ has ]been +分詞>, 関係副詞（where, when, why, how）; 形式主語it（that節やto不定詞を指すもの）, 過去完了形<had+過去分詞> |
| | | 4週 | Lesson 1 Ambassador of World Peace ; Lesson 2 Dogs as Human Companions | 現在完了形（受け身と進行形）<have [ has ]been +分詞>, 関係副詞（where, when, why, how）; 形式主語it（that節やto不定詞を指すもの）, 過去完了形<had+過去分詞> |
| | | 5週 | Lesson 1 Ambassador of World Peace ; Lesson 2 Dogs as Human Companions | 現在完了形（受け身と進行形）<have [ has ]been +分詞>, 関係副詞（where, when, why, how）; 形式主語it（that節やto不定詞を指すもの）, 過去完了形<had+過去分詞> |
| | | 6週 | Lesson 3 The Past, Present and Future of Umbrellas ; Lesson 4 Different Ways to Enjoy Art Museums | SVC（＝that節，疑問詞節，現在分詞，過去分詞），SV(O)O(=if節)；SVOC(=現在分詞，原形不定詞)，SVOC（＝過去分詞)の用法や，形式目的語it (to不定詞，that節を指すもの) |
| | | 7週 | Lesson 3 The Past, Present and Future of Umbrellas ; Lesson 4 Different Ways to Enjoy Art Museums | SVC（＝that節，疑問詞節，現在分詞，過去分詞），SV(O)O(=if節)；SVOC(=現在分詞，原形不定詞)，SVOC（＝過去分詞)の用法や，形式目的語it (to不定詞，that節を指すもの) |
| | | 8週 | 中間試験 | |
| | 2ndQ | 9週 | 試験解説と授業; Lesson 3 The Past, Present and Future of Umbrellas ; Lesson 4 Different Ways to Enjoy Art Museums | SVC（＝that節，疑問詞節，現在分詞，過去分詞），SV(O)O(=if節)；SVOC(=現在分詞，原形不定詞)，SVOC（＝過去分詞)の用法や，形式目的語it (to不定詞，that節を指すもの) |
| | | 10週 | Lesson 3 The Past, Present and Future of Umbrellas ; Lesson 4 Different Ways to Enjoy Art Museums | SVC（＝that節，疑問詞節，現在分詞，過去分詞），SV(O)O(=if節)；SVOC(=現在分詞，原形不定詞)，SVOC（＝過去分詞)の用法や，形式目的語it (to不定詞，that節を指すもの) |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 11週 | Lesson 5 How Climate Changes Are Affecting Us ; Lesson 6 English Textbooks from Around the World | seem＋to不定詞，to不定詞の完了形＜to have ＋過去分詞＞，It＋seems [ appears ]など＋that節，過去完了進行形；倒置構文，強調構文（It is [ was ]～that [ who ]...），動名詞の受け身＜being＋過去分詞＞，助動詞＋完了形 |
| | | 12週 | Lesson 5 How Climate Changes Are Affecting Us ; Lesson 6 English Textbooks from Around the World | seem＋to不定詞，to不定詞の完了形＜to have ＋過去分詞＞，It＋seems [ appears ]など＋that節，過去完了進行形；倒置構文，強調構文（It is [ was ]～that [ who ]...），動名詞の受け身＜being＋過去分詞＞，助動詞＋完了形 |
| | | 13週 | Lesson 5 How Climate Changes Are Affecting Us ; Lesson 6 English Textbooks from Around the World | seem＋to不定詞，to不定詞の完了形＜to have ＋過去分詞＞，It＋seems [ appears ]など＋that節，過去完了進行形；倒置構文，強調構文（It is [ was ]～that [ who ]...），動名詞の受け身＜being＋過去分詞＞，助動詞＋完了形 |
| | | 14週 | Lesson 5 How Climate Changes Are Affecting Us ; Lesson 6 English Textbooks from Around the World | seem＋to不定詞，to不定詞の完了形＜to have ＋過去分詞＞，It＋seems [ appears ]など＋that節，過去完了進行形；倒置構文，強調構文（It is [ was ]～that [ who ]...），動名詞の受け身＜being＋過去分詞＞，助動詞＋完了形 |
| | | 15週 | 前期末試験 | |
| | | 16週 | 試験解説 | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | Lesson 7 The Hayabusa Project ; Lesson 8 The Origin of Santa Claus | 関係代名詞の非制限用法，関係代名詞whose，前置詞＋関係代名詞，関係副詞where，whenの非制限用法；仮定法過去の復習，仮定法過去完了，さまざまな譲歩の表現，同格を表すthatの用法 |
| | | 2週 | Lesson 7 The Hayabusa Project ; Lesson 8 The Origin of Santa Claus | where，whenの非制限用法；仮定法過去の復習，仮定法過去完了，さまざまな譲歩の表現，同格を表すthatの用法 |
| | | 3週 | Lesson 7 The Hayabusa Project ; Lesson 8 The Origin of Santa Claus | where，whenの非制限用法；仮定法過去の復習，仮定法過去完了，さまざまな譲歩の表現，同格を表すthatの用法 |
| | | 4週 | Lesson 7 The Hayabusa Project ; Lesson 8 The Origin of Santa Claus | where，whenの非制限用法；仮定法過去の復習，仮定法過去完了，さまざまな譲歩の表現，同格を表すthatの用法 |
| | | 5週 | Lesson 7 The Hayabusa Project ; Lesson 8 The Origin of Santa Claus | where，whenの非制限用法；仮定法過去の復習，仮定法過去完了，さまざまな譲歩の表現，同格を表すthatの用法 |
| | | 6週 | Lesson 7 The Hayabusa Project ; Lesson 8 The Origin of Santa Claus | where，whenの非制限用法；仮定法過去の復習，仮定法過去完了，さまざまな譲歩の表現，同格を表すthatの用法 |
| | | 7週 | Lesson 7 The Hayabusa Project ; Lesson 8 The Origin of Santa Claus | where，whenの非制限用法；仮定法過去の復習，仮定法過去完了，さまざまな譲歩の表現，同格を表すthatの用法 |
| | | 8週 | 中間試験 | |
| | 4thQ | 9週 | 試験解説と授業; Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic ; Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing<br>Once and for All | 分詞構文（現在分詞）の復習，付帯状況を表すwith＜with＋名詞句＋修飾語句＞，分詞構文（完了形），分詞構文（過去分詞）の用法；進行形の受け身＜be動詞＋being＋過去分詞＞，whichの非制限用法（前の節の内容全体を受けるもの），未来進行形＜will be＋現在分詞＞，未来完了形＜will have ＋過去分詞＞の用法 |
| | | 10週 | Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic ; Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing | 分詞構文（現在分詞）の復習，付帯状況を表すwith＜with＋名詞句＋修飾語句＞，分詞構文（完了形），分詞構文（過去分詞）の用法；進行形の受け身＜be動詞＋being＋過去分詞＞，whichの非制限用法（前の節の内容全体を受けるもの），未来進行形＜will be＋現在分詞＞，未来完了形＜will have ＋過去分詞＞の用法 |
| | | 11週 | Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic ; Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing | 分詞構文（現在分詞）の復習，付帯状況を表すwith＜with＋名詞句＋修飾語句＞，分詞構文（完了形），分詞構文（過去分詞）の用法；進行形の受け身＜be動詞＋being＋過去分詞＞，whichの非制限用法（前の節の内容全体を受けるもの），未来進行形＜will be＋現在分詞＞，未来完了形＜will have ＋過去分詞＞の用法 |
| | | 12週 | Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic ; Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing | 分詞構文（現在分詞）の復習，付帯状況を表すwith＜with＋名詞句＋修飾語句＞，分詞構文（完了形），分詞構文（過去分詞）の用法；進行形の受け身＜be動詞＋being＋過去分詞＞，whichの非制限用法（前の節の内容全体を受けるもの），未来進行形＜will be＋現在分詞＞，未来完了形＜will have ＋過去分詞＞の用法 |
| | | 13週 | Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic ; Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing | 分詞構文（現在分詞）の復習，付帯状況を表すwith＜with＋名詞句＋修飾語句＞，分詞構文（完了形），分詞構文（過去分詞）の用法；進行形の受け身＜be動詞＋being＋過去分詞＞，whichの非制限用法（前の節の内容全体を受けるもの），未来進行形＜will be＋現在分詞＞，未来完了形＜will have ＋過去分詞＞の用法 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 14週 | Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic ; Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing | 分詞構文（現在分詞）の復習，付帯状況を表すwith＜with＋名詞句＋修飾語句＞，分詞構文（完了形），分詞構文（過去分詞）の用法；進行形の受け身＜be動詞＋being＋過去分詞＞，whichの非制限用法（前の節の内容全体を受けるもの），未来進行形＜will be＋現在分詞＞，未来完了形＜will have ＋過去分詞＞の用法 |
| | | 15週 | 定期試験 | |
| | | 16週 | 試験解説 | |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎的能力 | 人文・社会科学 | 英語 | 英語運用の基礎となる知識 | 聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。 | 2 | |
| | | | | 明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。 | 2 | |
| | | | | 中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。 | 2 | |
| | | | | 中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。 | 2 | |
| | | | 英語運用能力の基礎固め | 日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。 | 2 | |
| | | | | 日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。 | 2 | |
| | | | | 説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。 | 2 | |
| | | | | 平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。 | 2 | |
| | | | | 日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。 | 2 | |
| | | | | 母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。 | 2 | |
| | | | | 実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。 | 2 | |
| | | | 英語運用能力向上のための学習 | 自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。 | 2 | |
| | | | | 英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。 | 2 | |
| | | | | 英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。 | 2 | |
| | | | | 母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。 | 2 | |
| | | | | 関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。 | 2 | |
| | | | | 関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。 | 2 | |
| | | | | 関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。 | 2 | |
| | | | | 英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。 | 2 | |
| | | | | 実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。 | 2 | |
| 分野横断的能力 | 汎用的技能 | 汎用的技能 | 汎用的技能 | 日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。 | 2 | |
| | | | | 他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。 | 2 | |
| | | | | 他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。 | 2 | |
| | | | | 日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。 | 2 | |
| | | | | 円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。 | 2 | |
| | | | | 円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。 | 2 | |
| | | | | 他者の意見を聞き合意形成することができる。 | 2 | |
| | | | | 合意形成のために会話を成立させることができる。 | 2 | |
| | | | | グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。 | 2 | |

評価割合

| | 試験 | 小テスト等 | 演習・レポート | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総合評価割合 | 70 | 10 | 20 | 0 | 0 | 0 | 100 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎的能力 | 70 | 10 | 20 | 0 | 0 | 0 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |